

■事務局便り

事務局活動の紹介

日本風力発電協会 理事 事務局担当 **鈴木 徹**
(株式会社イーネックス)

はじめに

2001年12月任意団体として45社(正会員34社賛助会員11社)が参加しスタートして以来様々な活動を行ってきました。そして、2005年7月には法人格を取得し、本年11月現在121社(正会員67社賛助会員54社)が参加する国内唯一の風力発電産業団体へと成長しています。

この間、風力発電を取り巻く状況も変化しRPS法の制定、電力会社の電力買取りに対しての入札や抽選制度の導入、年度毎の買取り容量の設定、また、風車建設に係る景観や生態系等環境アセスメントの問題、更に、最近では東北電力の蓄電池の併設等業界にとっては厳しい環境が続いています。

しかし、今日まで協会は会員や周囲の方々の協力の下、着実に実績を上げ成長しています。

事務局の活動

現在、事務局員は常勤の職員と10月から新たに加わったメンバーを含め9名で夫々役割分担を決め活動しています。また、職員以外は全てボランティアです。

定例の活動としては、月1回開催の事務局会議と隔月開催の理事会への出席です。事務局会議では、月毎の会計報告、進行中の事業の状況や問題点の検討、理事会への審議事項があればその内容の検討、新規事業の企画及び理事会提出資料の作成等協会運営に必要な事項全てを扱っています。これ以外でも必要に応じ各自が協会事務所へ出向き対応しています。

また、専属の職員は来客の対応、外部からの問い合わせの回答、部会やワーキングの連絡、経理業務等忙しく、特に、最近では協会の認知度が高まってきたせいか取材の申し込みや問い合わせメールが多い日に100通近くも来ることもありこれを処理するだけでも相当な作業となります。このことは、協会にとってうれしいことなのですが、全てをこなしていくのは大変で、職員の増員あるいは広い場所への移転等できるだけ早く行いたいと考えていますが、資金面で中々実現が難しいのが現状です。

今後の活動

協会の運転資金の殆どは、会員の方々の会費で賄われています。昨年度から委託業務をいくつか請け少しでも会費以外の収入を確保する努力をしていますが、余裕を持った運営をするにはまだまだ十分ではありません。

そこで、今後は企画書を作成し国の各機関等へ積極的に提案を行って委託業務を増やし収入を確保していきたいと考えています。それには会員方々の協力が不可欠ですので、部会やワーキングからの提案はもちろんのこと、何かアイデアがありましたらどしどし事務局までご提案下さい。

事務局員の紹介

最後に事務局員を紹介します。

協会設立の立役者の一人で日本の風力発電の歴史を創ってきた人、電力会社も一目置く系統連系の神様、風力のパイオニア的存在の一人で体は細いがマルチパワーを持つ人、上流側から冷静に業界の動きを見つめ一見クールに仕事をこなす人、自身でホームページを持ち業界No.1の風車オタク、多くを語らず物静かに活動する保険のスペシャリスト、毎日一人でもくもくと仕事をこなす週末には無言で水面を見つめる隠れギャンブラー、そして10月から新たに加わった事業会社に所属するニューフェイスと私の9名です。

終わりに

今後益々風力発電を取り巻く環境は厳しくなり風当たりは強くなっていくことが予想されますが、風車は風が強いほどパワーを発揮するもの。会員数121社という数を力にして風力業界が成長していくことを期待します。そのためには会員の方々のご支援ご協力をお願いいたします。

また、各部会やワーキング並びに事務局への積極的な参加を求めます。

以上